

こくさいれんたい せんそう
国際連帯で戦争とめよう

たたか どうろうそうれんごう ぜんこく けんせつ がいちゅう か ひ せい き か そ し
闘 う動労総連合を全国に建設シストで外注化・非正規化阻止を

がつゆる かいけん とうきょうしゅうかい
12月許すな改憲！東京集会へ

がつ じゅうよつ か かんこく じんしゅろうそう じく たたか ぬ じんしゅうそうけつ き
11月14日、韓国・民主労総を軸に闘い抜かれる民衆総決起は、パククネ

だとう ごうほう にほん せかい ろうどうしゃかいきゅう きょだい れんたい
打倒のゼネストへの号砲です。日本と世界の労働者階級への巨大な連帯であり、

かいきゅうじょうせい かつ き たたか めいみやく つ しほんしゅぎ ていこくしゅぎ
階級情勢を画期する闘いです。命脈の尽きた資本主義・帝国主義をデモ・ゼ

しよくば せんきょ き そ う たお かくめい しょうり き ひら たたか
ネスト・職場占拠を基礎に打ち倒し、プロレタリア革命の勝利を切り開く闘

ろうどうしゃ しゃかい しゅじんこう かくめい じだい かくじつ よ
いです。労働者が社会の主人公となる革命の時代が確実にたぐり寄せられていま

ろうどうしゃしゅうかい う た どうろうそうれんごうけんせつ こくてつとうそうしょうり がいちゅう
す。11・1労働者集会が打ち立てた、動労総連合建設・国鉄闘争勝利と外注

か そ し ひ せい き しょうてつぱい たたか ろ せん こくさいれんたい はってん いったい れき
化阻止・非正規職撤廃の闘う路線は、国際連帯の発展と一体です。11・1の歴

してき ち へい がつとうそう ねんけっせん ゆうやくぜんしん
史的地平から11～12月闘争と2016年決戦へ勇躍前進しましょう。

こくてつけっせん けいぞく はってん
国鉄決戦の継続と発展へ

がつろうどうしゃしゅうかい あん ぽ こっかいけっせん ぐうぜん ばくはつ ひ つ べいてい
11月労働者集会は、安保国会決戦の空前の爆発を引き継ぎ、米帝とともに

ちょうせんゆう じ ちょうせんしんりやくせんそう つ すす あ べ にっていけんりよく ち あんだんあつ う やぶ
「朝鮮有事」＝朝鮮侵略戦争へと突き進む安倍と日帝権力の治安弾圧を打ち破

かんどうてき どう じ にちべいあん ぽ じ えいたい にってい じ えいせんそう
り、感動的にかちとられました。同時に日米安保と自衛隊、日帝の「自衛戦争」

せっきよくてき ようにん ろうどうしゃかいきゅう だんけつ ちから ひ てい てきたい にほんきょうさんとう
を積極的に容認し、労働者階級の団結した力を否定し敵対する日本共産党ス

しゅぎ しゃかいみんしゅしゅぎ せいりよく はげ とう は とうそう たたか ぬ しょうり
ターリン主義や社会民主主義勢力との激しい党派闘争を闘い抜き、勝利しま

した。

ほんとう かずおお ま お いか こえ どだい にほん ろうどううんどう いち どちから
「本当に数多く巻き起こった怒りの声の土台に、日本の労働運動がもう一度力

と もど す と き れきし うご だ どうろう ち ば た なかやすひろ
を取り戻すということが据わった時に、歴史は動き出す」（動労千葉・田中康宏

委員長) という 重大な分岐点において、11 月 集会は、激しい党派闘争に勝ち抜くことにより、闘う労働組合をよみがえらせ、路線選択・党派選択として 1 千万人の怒りと結合する突破口を開きました。

第一に、何よりも国鉄決戦の断固とした継続・発展の方針と展望を打ち立てたことです。

国鉄闘争は、採用候補者名簿への不記載基準の作成を「不当労働行為」とした東京高裁判決を確定した 6・30 最高裁決定をもって国鉄改革法の根幹を打ち破り、1047 名解雇撤回闘争の展望を實力で切り開きました。

さらに定年退職後の再雇用と外注化を抱き合わせたシニア制度導入以来の、第 2 の分割・民営化＝外注化・非正規職化攻撃と 15 年間にわたり闘って勝ち抜き、正規・非正規を超えて組合に団結する闘いが始まったことは、日本労働運動の画期的な大挑戦です。

そして動労水戸の被曝労働拒否の闘いが、労働運動の新たな発展の基軸として創造されていることが決定的です。

これらすべてが、2 月神奈川、7 月新潟、9 月福島と、動労総連合建設を前進させ、千葉、水戸、連帯高崎、西日本でのスト決起をもって 11 月集会を牽引(けんいん)し、「労働運動に命をかける」という青年労働者を生み出して、それが今や 4 割を超えた非正規労働者の希望となっています。誰もが「こういう闘いがやりたかった！」という闘いが国鉄決戦で切り開かれ、11 月集会へと結実したのです。

国鉄闘争 100 万人支援陣形の分岐・流動と再結集の動きが、国鉄闘争全国運動という新たな運動体のもとで、本格的に始まりました。今や国鉄闘争は階級的な労組拠点建設の大きな武器になりつつあります。何よりも動労千葉と動

ろう み と たたか まな ひとり ひとり ろうどうしゃ ぜんこく しょく ば ち いき こんていてき
 労水戸の 闘 いに学んで、一人また一人と、労働者が全国の 職 場と地域から根底的
 な決起を開始しています。

なか そ ね せんそう かいけん ろう そ は かい とっ ぱ こう い ち こくてつぶんかつ みるえい か こうげき
 中曾根が戦争・改憲と労組破壊の突破口と位置づけた国鉄分割・民営化攻撃
 は、逆に 30 年余の激闘を経て、労働者の団結と 共 同性に根ざした階 級 的労働
 組合をつくりだす巨大な結 集 軸へと転化しつつあります。大 恐 慌下で激化する
 「非正規 職 化と貧困」への怒りを国鉄闘争と結びつけ、労組拠点建設と多数派
 へ飛躍していく 情 勢が到来しました。

こくさいれんたい れき し て き ぜんしん
 国際連帯の歴史的な前進

だ い に こくさいれんたい だいぜんしん き ひら
 第二に、国際連帯の大前進を切り開きました。

ていこくしゅ ぎ せんそう ろうどうかいあく いんぼう べつ しん じ ゆうしゅ ぎ き き
 「帝国主義戦争と労働改悪の陰謀は別のものではない。新自由主義の危機をの
 りきる二つの顔だ。もし韓国の労働者が労働改悪を防ぐことができなければ、ま
 た日本の労働者が安倍政権の戦争を防ぐことができなければ、帝国主義戦争に見
 舞われる。新自由主義を墓場に突き落とそう」

ろうどう し ほん しょうめんげきとつ かいきゅうせんそう いっちょういつせき お
 「労働と資本が 正 面激突する、いわゆる階 級 戦争は一朝一夕に起こりうる
 ものではないということ。英雄的で革命的な活動家たちが一所懸命に見えないと
 ころで献身的に 闘 いを 準 備する、その過程こそが大事だ」

いち ど に ほん てつどうろうどうしゃ た あ いちばんじゅうよう げん ば
 「もう一度日本の鉄道労働者たちが立ち上がるために一番 重 要なのは現場だ。
 現場において新たな火花が点火されることが 重 要であり、現場からよみがえる
 ろうどううんどう せいこう に ほん わか てつどうろうどうしゃ あか みらい む か こ
 労働運動が成功するならば、日本の若い鉄道労働者は明るい未来に向かって過去
 い じょう ろうどううんどう てんかい
 以 上 にすばらしい労働運動を展開できる」

みんしゅろうそう ち いきほん ぶ じ む しょちょう げき にっかん
 民主労総ソウル地域本部のソンホジュン事務処 長 のこの檄（げき）は、日韓

ろうどうしゃ きょうつう てき きょうつう おも たたか しょうちょう
労働者が 共通の敵と 共通の思いで 闘っていることの 象徴です。

さらに、文字通り「血と硝煙」の中から国際連帯を求めて結集したトルコの
U I D—D E R（国際労働者連帯協会）の仲間が告げ知らせてくれたのはプロ
レタリア世界革命の巨大な現実性です。

し はいかいきゅう ろうどううんどう ち だんあつ みんかんはんかくめい たいとう
支配階級による労働運動への血の弾圧、民間反革命・ファシストの台頭、そ
して共産党スターリン主義の裏切りと対決する新たな運動と組織の形成の歴史
は、どんな苦難があろうとも労働者階級は不滅で、本質的に国際的な存在であ
り、資本家階級の没落と労働者階級の勝利は不可避であることを示していま
す。

どうじ どうろうち ばろうどううんどう ふくつ けっき かくきょうどう とうたつ とう ろうどうくみあい
同時に、動労千葉労働運動の不屈の決起、革共同が到達した党と労働組合の
一体的建設の地平、さらにスターリン主義と決別し、ファシスト・カクマルとの
し とう しょうり いま かくめいじょうせい とうらい むか に ほんかいきゅうとうそう ぜんれきし せかい
死闘に勝利して、今や革命情勢の到来を迎えた日本階級闘争の全歴史が、世界
の労働者階級の歴史そのものであることをあらためて鮮明にしています。

ろうどううんどう だいいゅうどう とつにゅう
労働運動は大流動に突入

だいきょうこう ちょうきんゆうかん わ じごく ん だ し はいかいきゅう ほうかい
大恐慌はすでに超金融緩和の地獄から抜け出せず、支配階級はバブル崩壊
の恐怖にさいなまれ続けています。とりわけ日本は日銀の国債保有残高が帝国
しゅぎ なか ん たか さいけん こくさいし じょう ほうかいじょうたい だれ けいけん
主義の中でずば抜けて高く、債券・国債市場は崩壊状態です。誰も経験したこ
とがない大破綻・大崩壊へと急速に突き進んでいます。それは労働者階級の革
めい とつぱ じょうせい
命でしか突破できない情勢です。

かんこく ほんかくてき かくめい む がつとお か きんぞくろう そしつこうぶ
韓国は本格的なプロレタリア革命へ向かっています。11月10日、金属労組執行部
げんだい き あ かんこく だいじどうしゃがいしゃ ろうそしぶちょう
と現代・起亚・韓国GM・サンヨンの4大自動車会社の労組支部長が、パクク

ネの労働法改悪阻止へ無期限全面スト宣言を行いました。それは改悪労働法案
が国会に提出されたら即刻闘いに突入するということです。セウオル号沈没
事件への怒り、「軍による教科書執筆」まで言い始めた国定教科書化への怒り
など、パククネに対して民主労総を結集軸に農民や貧民、青年、学生、あらゆる
市民団体が結束して立ち上がっています。

日本もゼネスト情勢です。T P P（環太平洋経済連携協定）大筋合意後、安
倍政権への農民の支持率は、7月の36%から10月は18%に半減し、不支持率
は59%です（日本農業新聞意識調査）。もはや怒りは沸点に達しています。労
働組合が時代の前面に登場したら情勢は劇的に変わります。

ところが日本共産党は「国民連合政府」構想で、ブルジョアジーの一部との連
合、安保・自衛隊容認＝朝鮮侵略戦争推進、労働運動解体の路線に突進してい
ます。東京新聞や朝日新聞も「新9条論」を打ち出し、日帝・安倍の戦争・
改憲攻撃にさおさしています。今こそ階級的労働運動とゼネストと国際連帯で
朝鮮有事＝米日韓体制による朝鮮侵略戦争を阻止するために闘う時です。

労働運動は大流動情勢です。10月連合大会で神津里季生会長一逢見直人事
務局長体制が発足しました。神津は改憲を掲げる基幹労連、逢見は改憲のみか
徴兵制推進のU Aゼンセンの出身です。他方で民主党は、細野豪志や前原誠司
らが民主党の解党を要求する異例の総翼賛的な事態です。

国鉄闘争が日帝支配階級と体制内の既成労組幹部を痛撃し追い詰めています。
労働組合と労働者の団結の力を確信し闘うことが核心です。11月集会の地平
の上に、国鉄決戦の前進と外注化阻止・非正規職撤廃で闘う労働組合をつく
りましょう。何よりも動労総連合建設であり、党と労働組合の一体的建設です。
そのために革共同は『前進』を労働者階級の新聞としてさらに変革します。

ほうかんとうそう 訪韓闘争から、11・29 ほし の ぜんこくしゅうかい 星野全国集会と 12 月 がつゆる がつゆる かいけん かいけん とうきょうしゅうかい とうきょうしゅうかい ようこう 東京集会（要項 5
 めん 面）のせいこう せいこう つ すす すす さいご さいご とうきだい とうきだい とうそう とうそう とく ところ ところ
 ら うった うった 訴えます。